

# 酔っぱらいライターのお酒見聞録



飛騨観光の中心地、高山よりさらに奥にある古川。アニメ映画「君の名は。」の聖地でもあるこの地酒が「蓬菜(ほうさい)」。だ。醸す渡辺酒造店は、「日本で一番笑顔



合部を牛を山勇にWシリーズの蓬菜を合わせる。イチボやザブトンなど部位ごとに味の違いを堪能した

## 岐阜県 蓬菜 (下)

### 極上の飛騨牛と絶妙マッチ

あふれる蔵」を標榜している。

蔵元の渡邊隆さん、アメリカ人蔵人のダレル・コティーさん、杜氏の北場広治さんに、半ば強制的に地元の蕎麦屋へ案内され、ネギ味噌天などの郷土料理をつまみに昼酒が始まった。この酒が激ウマ！きれいでキレが良く、上品な仕上がりが、軽く酔っ払ったところで、いよいよ酒蔵へ。麹室は2つあり、大吟醸用の室は3つの部屋に分かれているせいたくなく、改装中の部分は、

江口まゆみ 酔っぱらいライター。世界中の知られざる地酒を飲み歩き、日本でも日本酒、焼酎、ビール、ワイン、ウイスキーのつくり手を訪ねる旅を続ける。近著は『ビジネスパーソンのための一目おかれる酒選び』（平凡社刊）

原料処理室と釜場。和釜と甑を導入予定で、さらなる酒質の向上を図る。サーマルタンク(冷却装置付きタンク)に



は、見学者の寄せ書きがびっしり。良い酒ができるよう、「感謝」や「愛」など、良い言葉を書いてもらっているという。

と、そこへなぜか河童が登場。緑色の全身タイツに身を包み、河童のお面をかぶった蔵人さんが、タンクで權(かい)入れ(＝発酵のため材料を棒で混ぜる作業)をしているではないか。そうかと思うと、ふんどし一枚の顔ハメ看板があり、顔をはめて写真をパチリ。渡辺酒造店に隠し事は一切ありません」といふキャッチコピーとともに、記念写真が一丁上がりといっわけだ。

試飲した中では、無濾過生原酒の「W(ダブルユー)」シリーズが秀逸だった。つくりはすべて同じ純米大吟醸で、米だけが違う。「愛山」は深みと旨味があり、「強力」はスッキリとしているなど、米による味わいの違いが面白く、かつコクとキレのバランスも素晴らしい。

夜は渡邊隆さんの兄で社長の渡邊久憲さんも加わり、飛騨牛の中でも仔牛から一貫生産している「山勇牛」の熟成肉を、ちこそつになった。飲むのは山田錦を18%まで磨いた限定のWだ。くどくない甘いお肉、そこへ繊細でコクのあるW。最高の組み合わせだ。昼からの酒で酔っ払いつつも、二次会は天然鮎の塩焼きで、これまた一杯。奥飛騨の桃源郷で、桃源郷を意味する「蓬菜」という酒を飲み明かしたのであった。

(金曜日掲載)